

ロシアのウクライナ侵略に対する非難決議

ロシアは、2022年2月24日、ロシア軍によるウクライナへの本格侵攻を開始した。

ロシアは軍事施設にとどまらず市街地にも無差別攻撃を繰り返し、この間、ウクライナ非常事態当局は、死亡した民間人は2000人を超え、また、国連機関では、国外避難民が150万人を超えていると発表している。

この軍事侵攻は、ロシアが2015年に当事者として、ウクライナ東部の紛争解決をめざし和平合意した「ミンスク合意」を自ら破棄したのみならず、ウクライナの人々の人権も国際社会の警告も踏みにじる暴挙である。

対話を封じ、軍事力を行使し、力によって一方的に現状を変更しようとするこのような侵略行為は、国際法上、断じて許されるものではない。

ウクライナを支援する国々による制裁措置も開始された。こうした応酬は多くの人々の暮らしに痛手を与え、経済に打撃を与え、国際社会の秩序を混乱に陥れていくことになる。このような状況は、ひとえにロシア政権が招いたと言わざるをえない。

さらにロシアは、最大の核保有国であることを誇示し、核部隊を戦闘態勢に移行させた。生命の尊厳を究極的に否定する非人道的な核兵器を使つてのこのような威嚇を、「非核平和都市」を宣言する四條畷市として、断じて容認することはできない。

よって、四條畷市議会は、対話、協議による即時の解決を求め、ロシアのウクライナに対する侵略を強く非難することを決議する。

2022年3月7日

ロシア連邦

大統領 ウラジミール・プーチン 様

大阪府四條畷市議会